第五講その１《随筆》 旅論 〈選択肢問題〉

シルクロードを西に向かって歩いている時のことだった。中近東のどこかの町ですれちがった日本人に、一冊の文庫本を貰った。何百日も故国を離れ、異国をほっつき歩いている者にとって、母国語の書物は一つの宝石である。少なくとも私は、食物より日本の書物を恋しく思うようになっていた。話されるものであれ、書かれたものであれ、日本語への［A］は常に満たされることがなかった。砂漠を走るバスの中で、風景に眼をやりながら、ひとりでブツブツ日本語を呟（つぶや）いている自分に気がついて、ドキッとすることもあった。稀にシルクロードを東に下ってくる日本人に行き会うと、しばらくは日本語で言葉を交わし、別れ際に持ち合わせている日本語の本を交換するのが常だった。すでに読み終え、ただの［B］に化してしまった荷物としての書物を、相手の［C］のような書物と交換するわけだ。もちろん、事情は相手にとっても変わらない。私の［D］は相手の［E］になるはずだった。それから読み終えるまでの何日間かは、心が弾むような刻が持てることになる。事実、そのようにして松本清張や司馬遼太郎の一冊の本が、シルクロードを何十回となく行ったり来たりしているのだった。

（沢木耕太郎『路上の視野』）

問１　空欄［A］に入れるのにもっとも適切な語を次の中から選べ。

①　焦燥感　②　充実感　③　飢餓感　④　喪失感　⑤　安堵感

問２　空欄［B］～［E］には次の二つの語のいずれかが入る。その番号を答えよ。

①　石ころ　②　宝石

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第五講その2　建築論〈記述問題〉

エッフェル塔の高さは圧倒的だ。最上階の展望台は地上二七四メートル、ノートル＝ダムの塔のほぼ四倍である。かつてこれほどの高みから、それも固定的な視座に立って、パリの街を見下ろした者はいなかった。いくら聖堂の発散するアウラ（注）が鐘楼（しょうろう）をいくぶんかは実際より高く見せるといっても、この歴然たる物理的な差を無効化するにはほど遠い。これは都市の中心をずらすのにじゅうぶんすぎる開きである。本来ならば市の西方の周辺部にすぎないはずのシャン＝ド＝マルスに忽然（こつぜん）とそびえ立ったエッフェル塔は、他の塔をはるかに凌駕（りょうが）する高さによって、いわばパリを俯瞰（ふかん）する中心の座をノートル＝ダム寺院から簒奪（さんだつ）したのだ。

だが、エッフェル塔のいったい何がそれほど画期的であったのか。もちろん当時世界一を誇っていたその並外れた高さは、それだけでも世間の【A】耳目を集める【/A】にはじゅうぶんであったにちがいないし、主役に躍りでた鉄という素材が十九世紀の石の街にもたらしたであろう小さからぬ違和感が、パリ市民のあいだで物議をかもさずにはいない刺激的なスキャンダル性を帯びていたことも事実である。これらの要素は、万博開催時の半年間に二〇〇万人近くもの観光客を引きつけたことの説明としても、この塔がたちまちのうちに伝統ある都市の新たなシンボルとしての地位を獲得しえた理由としても、きわめて納得のいくものではあるだろう。

けれどもそこにはもうひとつ、石造のモニュメントにはけっして見られなかった別の特徴、まったく新しい側面が加わっている。すなわち、バルトが正当にも指摘している【B】内部の不在【/B】という側面だ。もはやこの塔を（というより、世間に流布（るふ）したこの塔のコピーやイメージを）飽きるほど見慣れてしまった私たちにしてみれば不思議でもなんでもないことだが、そもそも石の壁や屋根によって空間を囲いこむことが当然であった従来の建築物の中に置いてみたとき、訪れるべき内部というものが決定的に欠如しているこの塔が与える印象の斬新（ざんしん）さは、やはり格別であったと思われる。

むろん、三層にわたる展望台は存在する。ただしそれらは塔の内部というよりも、単なる上昇過程の中継点にすぎない。また、その真下に立つ者が「或（あ）る種母胎的な包摂感」（松浦寿輝）に襲われずにいないことは事実としても、そこがごく普通の意味で

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

建造物の内部であるとはやはり言いがたい。建築とは本来、空間を囲繞（いにょう）し異質化することによって固有の「内部」を創出するものであるとするならば、ここではそうした意図はいっさい排除され、すべてが呆気（あっけ）ないほどの率直さで外部に向かって露出している。いや、入るべき内部が不在である以上、それを取り巻く外部もまた存在しないと言うべきだろう。そこにあるのは要するに、内も外もない隙間（すきま）だらけの鉄のレース模様にすぎない。もう一度バルトの言葉を借りれば、「ある閉ざされた空間の探検をともなわない《見物》は存在しない」にもかかわらず、エッフェル塔は「そのなかに閉じこもることができない」逆説的な建造物なのである。

つまり、そこには見るべき対象、探索すべき空間は何もない。ノートル＝ダム寺院のように厳粛な祭壇や華麗なステンドグラスがあるわけではないし、ましてやルーヴル美術館のように著名な絵画や彫刻が置かれているわけでもないのだから。にもかかわらず、いったいなぜあれほどの観光客が毎年訪れるのか。彼らはそこに、何をしにくるのか。

（中略）

パリに住んでいると、ノートル＝ダム寺院を見ないことはあっても、エッフェル塔を見ずにすませることはほとんど不可能である。こちらが見ようと思わなくても、ふとした折に建物の隙間から、あるいは屋根の切れ目から現れて、あちらの方から有無を言わせず視界に侵入してくるのだから。どうしても見たくなければ、それこそモーパッサンのＣひそみにならって、エッフェル塔を見なくてすむ唯一の場所である塔の中のレストランで食事するしかあるまい。街を見下ろす者の視線と塔を見上げる者の視線は、こうしてパリのここかしこで双方向的にぶつかりあい、交差する。つまりこの塔は、見ることの快楽と見られることの至福を同時に実現した、きわめてまれな例なのである。それはひたすら人々の視線を挑発し、交錯させるためだけに存在しているモニュメントであると言ってもいい。

（石井洋二郎『パリ』による）

（注）○アウラ――独特の雰囲気、霊気。オーラ。

問１　傍線の箇所Ａ・Ｃの語句の意味を簡潔に記せ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問２　傍線の箇所Ｂ「内部の不在」とは、エッフェル塔のどのような側面を指しているか、本文の内容に即して五十字以内で具体的に説明せよ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第五講　知識モノ解説

文学史・人物解説

●その1の筆者　沢木耕太郎＝さわき　こうたろう（一九四七〜）東京生まれ・横浜国立大学経済学部卒。小説家・ノンフィクション作家・写真家。『深夜特急』シリーズは、世界放浪の旅の記録で、これまで読者になった多くの若者を旅に誘ってきた。

●松本清張＝まつもと　せいちょう（一九〇九〜一九九二）芥川賞受賞作家。「社会派サスペンス」ともいうべき推理小説で、とくに評価が高い。代表作『或る「小倉日記」伝』『砂の器』『黒革の手帖』『点と線』など

●司馬遼太郎＝しば　りょうたろう（一九二三〜一九九六）歴史小説家。著書『坂の上の雲』『竜馬がゆく』『街道をゆく』

なお『項羽（こうう）と劉邦（りゅうほう）』という作品はセンター試験現代文でも登場（スタディサプリ　高3トップ&ハイレベル現代文・第二十二講に収録）！

●その2の筆者　石井洋二郎＝いしい　ようじろう（一九五一〜）東京生まれ・東京大学法学部卒・パリ第四大学修士課程修了。東京大学教養学部長

●ロラン・バルト（一九一五〜一九八〇）フランスの記号学者、構造主義の思想家で元コレージュ・ド・フランス教授。著書『エッフェル塔』『零度のエクリチュール』『表徴の帝国』（訪日の際の印象をまとめたもの）

●モーパッサン（一八五〇〜一八九三）フランス一九世紀を代表する小説家。著書『脂肪のかたまり』『女の一生』

●ギュスターヴ・エッフェル（一八三二〜一九二三）フランスの建築家・橋、橋梁の設計技師

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

語句

凌駕＝りょうが→他のものをしのいで、上に出ること

俯瞰＝ふかん→高所から見下ろして眺めること・鳥瞰（ちょうかん）・パノラマ

忽然＝こつぜん→物事が急に起こること・突然

簒奪＝さんだつ→臣下など地位の低いものが君主などの高い地位を奪い取ること

逆説＝ぎゃくせつ→一般的な考えとは反対のところに真理や真実がある・パラドックス

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第五講

次の傍線部にあたる漢字を、次の選択肢から選びなさい。

（ア）万国アニメ博覧会が開サイされた　① 祭　② 歳　③ 宰　④ 催　⑤ 斎

（イ）スカイツリーの高さに圧トウされた　① 頭　② 塔　③ 踏　④ 倒　⑤ 到

（ウ）美しい透かしのモ様が浮かび上がった　① 模　② 裳　③ 茂　④ 問　⑤ 藻

（エ）今度のコスチュームはザン新だね　① 暫　② 斬　③ 漸　④ 惨　⑤ 残

（オ）大きなものに包セツされる感覚　① 接　② 節　③ 刹　④ 設　⑤ 摂

（カ）異質なものをハイ除しない社会　① 廃　② 排　③ 背　④ 灰　⑤ 敗

（キ）敵をチョウ発するのはつつしもう　① 兆　② 超　③ 挑　④ 懲　⑤ 跳

（ク）中ケイ地を挟んで空輸する　① 径　② 経　③ 継　④ 系　⑤ 携

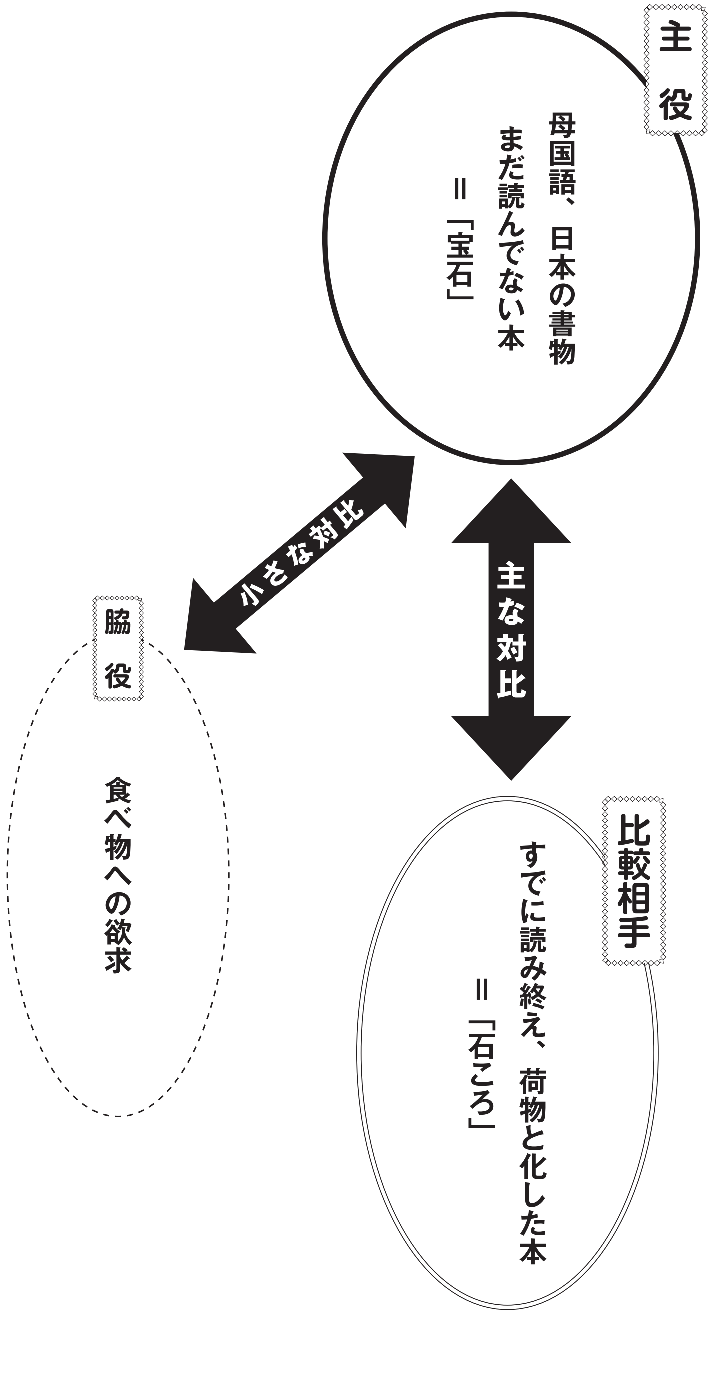
（ケ）モデルさんらしいオーラを発サンする　① 参　② 産　③ 讃　④ 散　⑤ 賛

（コ）大理石を素材にした壮麗な彫コク　① 剋　② 刻　③ 克　④ 穀　⑤ 告

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第五講その１　《随筆》　旅論

《本文の対比構造》



© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

《解説》

第一講に続き、今回の第五講も二本立てにしてみました。ときどき、あえて文章や設問をしぼって、リズムを変えたりします。その目的は、対比を見つけて読み・解くことにいつも以上に焦点化すること、また全十四回講座のなかで、よりたくさんの文章に触れてもらいたいということにあります。

問１《空欄補充》

［Ａ］は、「母国語の書物・日本語の本」に関する表現ですが、答えを決める基準は二つあります。すなわち〝満たされなかった〟という表現とセットになることと「食べ物」と関連することとです。「満たされることがなかった」というところだけ見ていると②「充実感」でも当てはまりそうです。しかし、「食べ物」との比較が成り立つためには③「飢餓感」である必要があります。つまり日本語の書物への渇望感（ないから欲しいという感覚）は食べ物より勝っていたということです。その他の選択肢①「焦燥感（あせり）」、④「喪失感」、⑤「安堵感（安心感）」は、そもそも「満たされる」ということばとセットになりません。すべて×です。

問２《空欄補充》

それぞれ「石ころ」か「宝石」かの二者択一です。まずベースになるのが「母国語の書物は一つの宝石である」という素敵な表現です。さて［Ｂ］は前後に「ただの」「化してしまった」という否定的な意味のことばが付いています。しかも「荷物としての書物」とまでありますから、「石ころ」と決まります。「宝石」といっても、まだ読んでない、ゆえに期待が膨らむ書物の方が「宝石」なわけですね。さて、したがって「相手の［Ｃ］」はまだ読んでない方ですから「宝石」ですね。つぎに「私の［Ｄ］」はすでに読んだ方ゆえ「石ころ」です。それも相手に渡れば「宝石」になるはずですから［Ｅ］は「宝石」です。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

模範解答

問1＝③

問2

B＝①

C＝②

D＝①

E＝②

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第五講その２　建築論

《本文の対比構造》

主役　筆者の見解
＋
ロラン＝バルト

エッフェル塔＝内部の不在
という逆説的な建造物

主な対比

比較相手

従来の建築物・本来の建築
（例）ノートル＝ダム寺院・ルーヴル美術館
壁や屋根で囲まれた空間をもつ
訪れるべき内部をもつ

小さな対比

脇　役＝一般論

エッフェル塔に関する筆者やバルト**以外の人の意見**
「三層にわたる展望台」「ある種母胎的な包摂感」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

《解説》

問１《語句解説・記述》

気を付けるべきは、傍線部にすでに出ていることばを解答に使わないことです。説明とは言い換えのことですから、同じことばを使うと〝同語反復（トートロジーと言われます）〟になってしまいます。〝人間とは、人間のことだ〟〝ホットケーキとはホットなケーキだ〟とやってしまうようなものです。後者なら〝小麦粉とタマゴを主原料によく混ぜ、丸く焼き上げたスイーツで、バターとメイプルシロップをかけるとなお美味〟などとします（くー！お腹すいてきた）。同語反復では、説明になってないよ、無意味だよと言われてしまいます。さて、Ａの「耳目を集める」ですが、最初から意味を知っていれば、あっけなく解答できたでしょうが、そうでなくても、傍線部にかかる「パリ市民のあいだで物議をかもさずにはいない刺激的なスキャンダル性」といった表現もヒントです。というわけで、「話題になる」「注意（注目）を引く」「関心を引く」「脚光をあびる」などと書けばＯＫです。いいですね、「話題を集める」などとしないことです。Ｃ「ひそみにならって」は「真似をすること」です。本文に則せば「モーパッサンのまねをする」ということです。その他「模倣する」「前例に従う」「お手本とする」などの表現もＯＫです。こちらも「前例にならう」などと傍線部と同じ文字を入れないでね。さて、漢字で書けば「顰みに倣う」です。

問２《傍線部説明・記述》

「内部の不在」とは、今回の主役であるエッフェル塔の特性です。文章の対比・比較を踏まえて言い換えれば、エッフェル塔ではない他のものにはある、存在する「内部」がエッフェル塔にはないということです。したがって、〝エッフェル塔ではない他のもの〟とは何か、それらにはある「内部」という特性を言い換えれば何か、本文から見つけます。まず、対比相手の〝エッフェル塔ではない他のもの〟とは、「従来の建築物」「石造のモニュメント」「本来の建築」です。いずれでもよいですが、これが得点になる第一ポイントです。「ノートル＝ダムの塔」や「ルーヴル美術館」だけだと○ではなく△です。少し減点されるとお考えください。なぜなら、具体例だからです。「はじめに」の《記述式問題解答へのガイドライン》にも記した通り、具体例ではなくよりまとまった表現が優先されます。「ノートル＝ダム寺院のような従来の建築物」といった表現なら減点はありません。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

では、「内部」の説明に移ります。これは「石の壁や屋根で空間を囲いこみ（囲繞し）外部と異質化すること」です。細かく分けると「石の壁や屋根」が第二ポイント、「空間を囲む（囲繞する）」が第三ポイント、「外部と異質化する」が第四ポイントです。加えて、「訪れるべき内部」「見るべき対象」「探索（探検）する空間」を第五ポイントとします。そして「不在」の言い換えとして「欠如」「排除」「ない」「存在しない」などが第六ポイントです。最後に「逆説的」を第七ポイントとします。一般的な建築物と異なることを凝縮している表現です。全部で七箇所得点になるキーワードを言いましたが、順番は問いません。自分の答案にこれらに該当するものがあれば、一つずつ加点していきます。記述答案で満点は困難です。四つ得点できたら上出来です。

模範解答

問１　Ａ＝注意を引くこと　Ｃ＝真似をすること

問２　従来の建築物のように石の壁や屋根で空間を囲い外部と異質化することがなく、訪れる空間もない逆説的側面。（句読点とも五〇字）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　解答　第五講

（ア）④　（イ）④　（ウ）①　（エ）②　（オ）⑤
（カ）②　（キ）③　（ク）③　（ケ）④　（コ）②

解答漢字一覧

（ア）開催　（イ）圧倒　（ウ）模様　（エ）斬新　（オ）包摂
（カ）排除　（キ）挑発　（ク）中継　（ケ）発散　（コ）彫刻

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。